

新春*
 interview



イーソーコ 遠藤 文 社長

物流不動産ビジネスを
 取り巻く状況について
 ☆金融の理論によりフ
 アンドの超大型倉庫の供
 給が止まらない。201
 6年夏以降、従来の大型

倉庫の空きが発生してお
 り、特に都心部は今後1
 ～2年に玉突き現象が増
 加していく。
 また都心部、運河沿い
 の保管型倉庫は
 イム会員の増加でアマ
 んがユーザーを抱え込む

スタジオ、店
 舗、オフィス
 なども多用途
 へのリノベ
 ションへのニ
 ーズも拡大し
 ており、物流
 以外の倉庫ニ
 ーズの広がり
 が肌で感じら
 れる一年だっ
 た。

近年の物流
 業界の動きを
 ☆アマゾン
 のプライム会
 員は米国で6
 500万人を
 超えた。東京都の人口1
 346万人の5倍弱とな
 り、前年同月比約40%の
 勢いで増えている。プラ
 イム会員の増加でアマ
 んがユーザーを抱え込む

ことにより、荷主はアマ
 んに委託することでも
 っとも重要な最終目的と
 なる販路を確保できる。
 これによりアマゾンは連
 年も5年以内に、商流
 と物流を一挙に担う流通
 を制覇するとみている。
 イーソーコグループの
 動きについて

☆ホームページの全面
 リニューアルを図り、イ
 ーソーコグループが展開
 中の物流不動産ビジネス
 についてわかりやすく紹
 介できた。

☆昨年インターネット
 の経営者インタビュー番
 組に出演させていただ
 き、「物流業界を委ねる、
 物流不動産ビジネス」と
 題したテーマで、業界以
 外の方にもイーソーコの
 取り組みをアピールする

ことができた(番組視聴
 方法||googleにて
 「賢者TV 遠藤文」で検
 索)。

同番組で遠藤社長がア
 ピールしたこととは?
 ☆これまでの3Kとい
 う物流業のネガティブな
 イメージから、イーソー
 コでは新3K
 「稼げる・カ
 ッコいい・感
 動する」とい
 う魅力的な物
 流業界に変え
 ていきたいと
 いうこと。

また人材教
 育にも注力
 し、個々のス
 キルアップ向
 上とともに努
 力が報われる
 会社にしてい
 きたい。

物流不動産
 ビジネスは順
 調に推移しているのか
 ☆時間と場所は「コピ
 ーできないもの。特に場所
 土地は、世界に一つしか
 存在しない。アマゾンは
 アメリカ全土で消費地に
 近い距離に40拠点の大型
 物流センター構築と同時
 に、自社物流への切り替
 えを宣言した。これは物
 流||不動産を示したもので、国内でも全国の不動
 産・倉庫を抑えることは
 大変重要で、物流不動産
 ビジネスの優位性は高ま
 る一方だ。

実際、アライアンスを
 組むパートナー企業様の
 業績も大変順調で、物流
 不動産ビジネスは競合が
 少ないフルオーシャン
 市場として、開拓の余地
 が十分あるものと認識し
 ている。

そのためのマネージメ
 ントする人材「物流ユー
 ティリティープレイヤー」
 を今まで以上に強化・
 育成を図りたい。

物流不動産のニーズが
 高まる中、物流の枠を超
 えて全産業界の発展に寄
 与できる存在でありたい。

☆物流不動産ビジネス
 を物流業界に、広く深く
 拡大して、業界を活性化
 していきたい。物流業を
 機軸に不動産、IT、金
 融を巻き込んだソリユ
 ーションビジネスを行い、
 今年も新規開拓を加速し
 ていく。

合併会社は年間3～5
 社設立しており、202
 0年までに全国20社設立
 を目指す。
 今年の展望を

物流業を機軸に 新規開拓を積極化

同番組で遠藤社長がア
 ピールしたこととは?
 ☆これまでの3Kとい
 う物流業のネガティブな
 イメージから、イーソー
 コでは新3K
 「稼げる・カ
 ッコいい・感
 動する」とい
 う魅力的な物
 流業界に変え
 ていきたいと
 いうこと。

また人材教
 育にも注力
 し、個々のス
 キルアップ向
 上とともに努
 力が報われる
 会社にしてい
 きたい。

物流不動産
 ビジネスは順
 調に推移しているのか
 ☆時間と場所は「コピ
 ーできないもの。特に場所
 土地は、世界に一つしか
 存在しない。アマゾンは
 アメリカ全土で消費地に
 近い距離に40拠点の大型
 物流センター構築と同時
 に、自社物流への切り替
 えを宣言した。これは物
 流||不動産を示したもので、国内でも全国の不動
 産・倉庫を抑えることは
 大変重要で、物流不動産
 ビジネスの優位性は高ま
 る一方だ。

実際、アライアンスを
 組むパートナー企業様の
 業績も大変順調で、物流
 不動産ビジネスは競合が
 少ないフルオーシャン
 市場として、開拓の余地
 が十分あるものと認識し
 ている。

そのためのマネージメ
 ントする人材「物流ユー
 ティリティープレイヤー」
 を今まで以上に強化・
 育成を図りたい。

物流不動産のニーズが
 高まる中、物流の枠を超
 えて全産業界の発展に寄
 与できる存在でありたい。

☆物流不動産ビジネス
 を物流業界に、広く深く
 拡大して、業界を活性化
 していきたい。物流業を
 機軸に不動産、IT、金
 融を巻き込んだソリユ
 ーションビジネスを行い、
 今年も新規開拓を加速し
 ていく。

合併会社は年間3～5
 社設立しており、202
 0年までに全国20社設立
 を目指す。
 今年の展望を